

## 座談会

## 異文化経営って何だろう

異文化経営とは何か、何のために行うのか。異文化のカベを乗り越えるには。異文化経営学会会長の馬越恵美子さんが海外駐在経験者の皆さんと語り合った。

## 【出席者】（発言順、敬称略）

## 一倉由布子

スターツコーポレーション株式会社 国際営業部 部長

## 矢野文之

一般社団法人 日本在外企業協会 業務部長（キャノン）

## 多田一郎

一般社団法人 日本在外企業協会 総務部長（丸紅）

## 林 徹

一般社団法人 日本在外企業協会 業務部主幹（旭硝子）

## 【司会】

## 馬越恵美子

異文化経営学会会長／桜美林大学経済経営学系 教授



## 海外・外国人だけではない異文化

**馬越** 異文化経営学会をつくったきっかけは2001年の9・11同時多発テロでした。それまでの私は、世界は米国的な経営に収れんしていくものだと思って経営学を研究していました。ところがこの事件で、世界の文化は収れんするどころか拡散しているのだということをしごく感じたんですね。文化やイスラムなどの宗教といったものを強く意識するようになりました。日本に帰国して何かできることはないかと考えた時に、経営にも異文化という視点が大事だと思い2003年に異文化経営学会を立ち上げました。現在約400人の会員がいます。最初は「何それ？」だったので、今では学者の間ではすっかり定着しています。企業ではカルロス・ゴーンさんも異文化経営

の重要性を語っています。欧米ではごく当たり前になっていますが、日本はまだ時間がかかりそうです。現在、桜美林大学で教えながら日立物流とアクサ生命保険の社外取締役をやり、ここでも異文化を体験しています。またジャズもやって異文化の境界線を広げています。ジャズマンにはジャズマンの、明らかに大学の先生たちとは違う文化、企業とも全く異なるミュージシャンの世界があります。異なるものを偏見で見のではなく、むしろ自身の偏見をなくしていくことが私自身の挑戦だと思っています。違った属性の人同士が共に仕事をするにはどうすればいいか。共に仕事することで、新しい価値を発見できるかもしれません。皆さん多彩なご経歴をお持ちなので、今回の座談会がそうした機会になればと思います。

一倉 スターツグループは総合生活文化企業と